スマート・テロワール
日本の明日の農村

第4章

スマート・テロワールと地元愛

Copyright Ⓒ Smart Terroir Association All rights reserved.

ワールドカップ・フランス大会で「最も美しい村」に出会う

スマート・テロワール
日本の明日の農村

パッチワークの丘の変貌

- ９０年代末に北海道上富良野町上川郡の「深山峠」に馬鈴薯の拠点建設
  - カルビーポテト上川センター
  - カルビーポテト上川貯蔵庫
- 美瑛町から富良野町にかけてなだらかな丘が連なる
  - パッチワークの丘と称される
    - 夏のジャガイモの花、ラベンダー、麦秋
    - 秋は収穫にいそしむ人のすがた
- ９０年代半ばから土地改良の手が入って、美しい景観が損なわれた

美瑛の丘
前田真三
写真集
より

Jリーグの誕生と地域主義の見直し

- 1993年Jリーグ誕生→地域住民のサポート→チームは地域住民の誇り
- 1998年ワールドカップフランス大会に日本チーム出場

「フランスの最も美しい村」運動との出会い

2005年「日本で最も美しい村」連合の立ち上げ

スマート・テロワールは、サッカーと同様、地域の可能性に地域住民が力と叡智を結集するところから始まる

Copyright © Smart Terroir Association All rights reserved.

「フランスで最も美しい村」協会の歴史と心

スマート・テロワール
日本の明日の農村

合併への抵抗が「最も美しい村」のきっかけ

1990 年代にフランスは財政破綻回避のために38,000村の合併を推進

セーラック氏（コロン・ラ・ルージュ村の村長）が立ち上がる

- 村の景観や遺産を守る運動を呼びかけ
- 1998年「フランスの最も美しい村」協会立ち上げ
  - 加盟基準
    - 人口2,000人以下
    - 最低二つの世襲財産（遺産、遺跡）があって、その維持に尽力
      - 遺産＝景観、歴史、芸術、科学の分野
    - 景観と建築物の様式の維持に尽力

もともとあった美しさの再発見

- コロン・ラ・ルージュ村の建物は赤いレンガが用いられている
- 19世紀にこの村はワインで栄えた
  - ワイナリーのオーナーたちは赤いレンガに漆喰を塗って白い館を競って建てた
  - 葡萄が疫病にかかって全滅し、ワイナリーは廃業した
  - 残されたワイナリーの館は時代とともに漆喰が剥がれて、赤いレンガが顔を出した
- このレンガはこの地域の土で作られ、地域を象徴する色だった
  - 漆喰を塗って白くするのではなく、赤煉瓦のままで村おこしを行った
  - NHKアーカイブス「フランスの小さな村の物語」で紹介されている
- 「美しさ」とはこういうことだ

「美しい村」に通じる「世界遺産」の心

- きっかけはベルゲンの少女の手紙
  - 1978年ユネスコ世界遺産登録の開始
  - 1978年ガラパゴス諸島登録
  - 1979年ノルウエイのベルゲンの倉庫群登録
    - 倉庫群は再開発で取り壊される計画が浮上していた
    - 一人の女子学生が「倉庫はこの街の象徴だ」として再開発計画に反対した
    - 少女は建築遺産を抱える世界中の都市と連携してベルゲンの建築遺産の取り壊し反対を訴えた
    - 世界中からこの訴えに寄り添う意見が寄せられ、これを知った街の人々がその過ちに気づかされた
    - 町は保存を決め修復を行い、現在では街のシンボルとなっている
- 忘れられた価値の発見
  - コロン・ラ・ルージュも、ベルゲンのケースも、新しい物を作るのではなくもともと持っていた、誇れる価値に気づいてそれに磨きをかけたということ

Copyright © Smart Terroir Association All rights reserved.

「日本の最も美しい村」連合の使命

スマート・テロワール
日本の明日の農村

人口１万人以下という条件

- 人口が１万人程度までなら、首長がリーダーシップを発揮し、住民の全員参加の合意が作れる
- 住民が首長の指揮のもと一つになるような結束力が美しい村の基盤として必要だ
- 日本の村の首長の権限は極めて小さい
  - 公共の建物の建設において、関係する省庁が施設の種類によって異なる
  - このため共通のデザインを実現できない
  - 農村では共通の価値を求める調和が大切
  - 地域の価値を損なうものには制限が加えられるべき

フレキシブルな参加条件

- 参加は町村単位が原則だが、合併して市に参入された地域についても、地域協議会を結成することを条件に加盟が認められている

仮免許レベルを脱するための課題

- 欧州の美しい村に比べて日本の美しい村はまだ仮免許レベル
  - 電柱と電線
  - 警察の幟旗
  - 広告看板
- 景観条例の制定が進まない
- 食料やエネルギーの自給

自立の基盤を地道に整備するとが求められている

Copyright Ⓒ Smart Terroir Association All rights reserved.

スマート・テロワールが再ローカル化の要

スマート・テロワール
日本の明日の農村

人口が増える欧州の村、減り続ける日本の村

- フランスの村（コミューン）の合併　38,000→36,500減少を食い止めている
- 日本の市町村合　3,300→1,700減少が止まらない
- 欧州の美しい村の人口は増加傾向だが、日本では減少している
  - 「日本の最も美しい村」加盟の合併しなかった村の人口推移
    - 2005年から2013年の５年間で人口は７％減少した　20年後には30％の減少が予測される
- 市場経済のルールからの離脱が農村の再生につながる
  - 経済の主役を供給者側から消費者側へ移すこと
  - 行政の側から住民の側に立って自立したコミュニティ作りを戦略的に目指す

棚田を残す意味を考える

- 今の時代にあった残し方を考えるべき

マチュピチの段々畑に学ぶ

- 標高2000メートルのマチュピチの急斜面にも段々畑
- そこではジャガイモ、トウモロコシ、コカの葉から家畜まで全ての食料を作って、自給自足している
- 棚田も、コメだけでなく全ての食料を作るべき
  - 高地でヤギやヒツジを放牧し
  - 中間地でジャガイモ、大豆などの畑作
  - 低地で水田

限界集落が別天地になる

- 阿武隈山地で豚の放牧に成功した事例→降矢敏朗さん

経済的自立がもたらす自信

- 経済的自立→郷土愛→景観が美しく→旅行者の増加→観光業の生成→さらなる自信

スマート・テロワールの使命と将来

- 真に安らぎの場を提供できる場所の提供
- そのために景観、料理、文化が美しくなければならない
- 中核都市にJリーグチームができ、それを取り囲む形で美しい村が誕生し、都市住民がサポーターになる
- 地域では食料もエネルギーも自給自足が行われ、余剰分が地域外に出荷される

Copyright © Smart Terroir Association All rights reserved.